

横須賀市まちづくり評価委員会報告書（平成 20 年度）

（案）

将来像 1

将来像 2

将来像 3

まちづくり評価委員会意見

(1) 新世紀ビジョンの方向に向かっていることを実感できるか(どういうところでそう思うか)

多くの人が訪れるまち横須賀

- 市民の実感はいずれ良い方向に向かっていると思う。
- 鉄道乗客数の減少は定期券によるものが多く、定期券以外の利用者は横ばいである。
- 市民は、家電商品など大きな買い物をするときは横浜や東京に出かけていると思われる。顧客吸引力指数については、普段の買い物は地元を利用しているが、休日の買い物の額が大きいので、数値が低く出ているのではないかと。
- 人が買い物をする場所を決める要因は、本質的にはそこに欲しいものや魅力あるものが売っていることである。
- おしゃれなものを持っている人に聞くと、ほとんど東京、横浜で購入しており、横須賀には魅力ある店が少ない。

多くの人が働くことができるまち横須賀

- 新たに横須賀に進出してくる企業もあり、働く場はそれほど減っていないと思う。アンケート結果は大企業の流出によるイメージ的なものによる部分も大きい。
- 中高年齢層の満足度が低く、優先度が高いことに注意が必要。
- 相対的に中高年齢層の満足度が低くなっているが、他の施策と比較し、全体的に満足度が低いので、政策的に重点化すべきというメッセージなのではないか。
- 横須賀のポジションが変わってきていることに注意が必要である。以前のように、大企業が進出してきて雇用が確保できるというイメージを持ち続けることは危険である。

『にぎわいを生む社会』

(2) 今後の方向性

多くの人が訪れるまち横須賀

- 美術館、ソレイユの丘など観光施設は充実したので、施設までのアクセスの改善・PRなど、リピーターを増やす努力が求められる。
- 顧客吸引力指数について、数値が低いことは妥当であるが、2年間で0.05ポイントも下がったのは大きな変化なので、その要因を検証しておく必要がある。
- 常時のにぎわいには商店街の活性化が重要だが、活性化のためには、市の働きかけよりも、商店街自身ににぎわいを生めるよう取り組んでいかなければならない。商店街がどう思っているか、意見を聞いて欲しい。意見を聞く際には、商店の形態(住宅兼店舗・フランチャイズなど)に注意が必要。
- 横須賀のランドマークとなるような商業施設が必要であり、大規模な再開発を促していくべきではないか。
- 市外の人を買い物客として呼び込むのは難しいので、市民をいかに引き留めるのかという視点で考えなければならない。

多くの人が働くことができるまち横須賀

- 高齢者や子育てが終了した女性に、就労の場があることをアピールできれば満足度は上がると思う。
- 高齢者は、給料が下がっても、働く時間・場所といった自由度を重視する傾向にあり、女性の就労については、生活のためというより、小遣いが欲しいという考えのようである。
- シニア創業資金融資や女性創業資金融資の実績を追跡する必要がある。
- 有償ボランティアのような細かい分野で、雇用の機会を見出していくのがよく、社会的にも求められているのではないか。
- 会社に勤めていた人たちが、社会に貢献したいと思ってもどのようにすればいいのかわからないと思われる。市や商工会議所で、中小企業支援と組み合わせ、退職者の経験や得意なことを活かせるよう、企業サイドと退職者をマッチングするなど中間的なしくみづくりが必要である。
- 横須賀で教育を受けたこどもたちが、地元を意識し、横須賀で働きたいと思ってもらうことも必要ではないか。
- 県立大学の学生が卒業した後、横須賀で働いて欲しいと思っているが、働きやすい場所・環境がなければならぬ。
- 就業意欲がある者の支援や働く場の確保のための施策について、セグメント別にニーズを把握し、ニーズのあるところに施策を打っていくという視点も必要である。

『にぎわいを生む社会』

- 東京・横浜とは違う「これぞ横須賀」という魅力を創造することが重要である。

(3) 目標指標について

多くの人が訪れるまち横須賀

- 顧客吸引力指数は、にぎわいについての市民の実感とずれている可能性があるので、注意が必要である。
- 美術館など集客施設の来館者数は、市外からどれだけ呼べているかが重要であると思う。

多くの人が働くことができるまち横須賀

- 中高齢者の雇用対策の効果を把握できるような指標があると良い。

(4) その他意見

- 住宅などの開発にあたっては、生活道路への影響や小学校への通学など、交通面で配慮が必要。
 - 逗子は若者、鎌倉は古都に対して、横須賀は危険というイメージがあるという話を聞いたことがある。軍港などのイメージを、危険ではなく魅力あるものに変えていかなければならない。
 - ECOへの関心が高まっているので、車社会を発展させるのではなく、商業施設や観光施設を結ぶ新都市交通のようなものが必要だと思う。
-

まちづくり評価委員会意見

(１) 新世紀ビジョンの方向に向かっていくことを実感できるか(どういうところでそう思うか)

子育て世代に選ばれるまち横須賀

○はぐくみかんの整備は、子育て施策の最先端といえる。

○居住場所の選択において、子育ての条件というのは女性にとって大きな判断材料となる。会社の社員の中に、子どもが生まれて横須賀に転入したという話を聞いたことがない。保育園、幼稚園の条件が悪いことを理由に横須賀から転出するという話はよく聞く。

学びを大切にするまち横須賀

○市民の満足度が高く出ているが、アンケートの回答理由をみると、市民大学の充実や県立保健福祉大学の開学などが良い意見を誘引しており、学校教育そのものへの満足度はそれほど高くないのではないかと。優先順位は低いと捉えられていない問題があるかもしれない。

○勉強は塾に任せようという人も多いのではないかと。

○教育や防災の分野では、満足度が高いから資源の投入を抑えていいということにはならないと思う。鉄道の安全対策と同じように、満足度が高いという理由から予算配分を抑えると、その分野は手薄になり、元の水準を取り戻すのに多くの時間を要することになる。

『新しい芽が伸びゆく社会』

(２) 今後の方向性

子育て世代に選ばれるまち横須賀

○保育園待機児童数は県内でも少なくなっているが、数字のマジックの可能性はある。東京・横浜に勤めている親が子どもを預けるためには、20時まではマストであり、21時、22時までの延長保育も必要とされている。横須賀市では遅い時間まで延長保育をしている保育園数は少ないため、そもそも申し込みがされないのではないかと。働く女性のニーズに合っているか検証が必要である。

○子育て全体を見ると保育園だけではなく、幼稚園もあるので、子育てを全体的に見て、必要な支援をしていく必要がある。

○幼稚園の入園支援金は自治体によって差があるので、お勧めするという意味ではないが、入園補助金を出している自治体は子育て世代の評判がよいようである。厚木市ではおむつを無料で配布している。

○子育てに疲れた親がリフレッシュできる短時間の一時保育の充実を検討していくことが必要である。

○子育ての中心ははぐくみかんであるが、地域においても相談できる体制の整備と、そのための人材育成が求められる。

○はぐくみかんを中心として、児童委員や保育士など地域のネットワークを形成し、虐待の早期解決などにつなげて欲しい。

○子育てしやすいまちというイメージをつくるには、まち全体で子育てに取り組んでいると感じることができると地域づくりが必要であると思う。公園などで情報交換ができるような場づくりは今後も重要である。

○子育てに関する問題は多岐に渡っているので、行政だけで対応することは難しい。独自の取り組みを行っている企業を評価し、支援する施策がないと水平展開がないまま埋もれてしまう。

○谷戸に住む高齢者には駅前に転居してもらい、家賃補助など子育て世代の支援を行いながら空いた家を活用していく施策が効果的であると思う。

学びを大切にするまち横須賀

- 不登校の問題は、施策の中でも重要な問題である。
- 中学校のスクールカウンセラーやふれあい相談員の配置を充実させることで、状況がよくなる可能性があるのではないか。
- 不登校の原因には、虐待やネグレクトもあると思う。小学校に通う子どもを持つ親は、子育ての悩みも抱えているので、相談も含めて、教育と子育てをうまくつなげていくことが重要である。
- 横須賀で学んだ人が横須賀で活躍できるよう、市民が学んだことを地域で生かすという気持ちになることが『新しい芽が伸びゆく社会』につながるのではないかと。

『新しい芽が伸びゆく社会』

- 「新しい芽が伸びゆく社会」には出産の支援、就学までの支援、学校教育などが含まれているが。安心して出産できる場の確保も大きな課題である。
- 医師の確保や、NICU整備の支援などに継続して取り組んで欲しい。
- 産科の医師が足りないので、横浜、川崎の病院との連携を強化することが現実的であると思う。

(3) 目標指標について

子育て世代に選ばれるまち横須賀

学びを大切にするまち横須賀

まちづくり評価委員会意見

（１）新世紀ビジョンの方向に向かっていることを実感できるか（どういうところでそう思うか）

高齢者が活躍するまち横須賀

- 男女に満足度の差があるので注意が必要。

障害を感じさせないまち横須賀

- 満足度が高く、優先順位が低い、今後も検討していかなければならない項目。
- だんだんよくなってきていると思う。
- 生活のうえで困らないかどうかは、障害を持っている人にしか分からない面もある。

『長寿を楽しめる社会』

（２）今後の方向性

高齢者が活躍するまち横須賀

- ボランティアなどに参加する人の中で、福祉・環境関係の活動には女性、自治会・町内会の活動には男性が多く参加している。福祉と環境は男性、そのほかの分野では女性に参加してもらう工夫が必要である。
- 地域活動に参加することで、今まで培ってきた経験を生かせる。

障害を感じさせないまち横須賀

- 心のバリアフリーも含めて、バリアフリーのまちづくりを大事にして欲しい。
- 障害を持った人の意見を聴取し、セグメント別に意見を分析して、施策に取り組まなければならない。
- 駅舎エレベータ設置のような施策だけではなく、バリアフリー対策には大きな視点が必要。
- 実際に使っている人からの視点がないと十分なサービスが提供できない。
- 障害のある人にとって、人の手助けではなく、自ら行動でき、自分で生活できることが重要である。

（３）目標指標について

高齢者が活躍するまち横須賀

障害を感じさせないまち横須賀